

# 彙 報

会 長 小 泉 保

## 平成元年度第2回常任委員会

日 時：平成元年9月2日（土）午後2時～5時

場 所：三省堂大阪支社

出席者：小泉 保（会長）、寛 壽雄、佐藤昭裕、松本克己、藪 司郎（以上、  
常任委員）、近藤達夫（常任委員、事務局長）、下宮忠雄（編集委員長）、  
影山太郎（常任委員、第99回大会開催校）。

議事ならびに報告：

- （1） 第99回大会について。研究発表者の選定、プログラムの決定等を行なった。
- （2） 第100回大会について。以下の案を委員会に提出することとした。
  - 1) 第100回記念大会として東京大学で開催すること。
  - 2) 第1回からの開催校一覧を含む記念の小冊子を発行すること。
- （3） 文部省「言語学用語集」について。専門委員会委員長松本克己氏より経過報告があった。
- （4） 研究発表、投稿に会員でない者を含むことについて。平成元年度第1回委員会で継続審議となった本件について、常任委員会としては、「研究発表については代表者1名が会員であること、投稿については、共著者の半数以上が会員であること」とする基本方針を確認したが、尚、委員諸氏の意見を十分聞く必要がある、また、編集委員会の意向も尊重する必要があると判断して、結論を出さないまま、委員会にのぞむことにした。
- （5） その他
  - （a） 1990年音声言語処理国際会議（実行委員長 藤崎博也氏）の協

賛団体となることを委員会に提案することとした。

(b) 財団法人津田塾会主催日本語専門家会議および日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」(於津田ホール, 1989年12月1日, 2日, 3日)の協賛団体となることを, 委員会に提案することとした。

(c) CIPL 常置委員会委員松本克己氏より第15回国際言語学会会議(1992年)の開催候補地その他について報告があった。

(d) 1990年4月より, 現会長小泉 保氏が, 大阪外国語大学から関西外国語大学に転出することになったとの報告がなされ, それに伴う事務局体制の変更について検討した。

#### 平成元年度第2回委員会

日 時: 平成元年10月14日(土) 午前10時～12時

場 所: 関西学院大学文学部新館大会議室

出席者: 小泉 保(会長), 井出祥子, 井上和子, 上野善道, 鏡味明克, 影山太郎, 菊地康人, 近藤達夫, 阪倉篤義, 崎山 理, 佐藤昭裕, 柴田武, 柴谷方良, 下宮忠雄, 庄垣内正弘, 竹内和夫, 田村すず子, 土田滋, 角田太作, 徳川宗賢, 長嶋善郎, 仁田義雄, 林 栄一, 原口庄輔, 松本克己, 藤 司郎, 吉田和彦(以上27名)。

委任状: 33名。

オブザーバー: 成田義光(第99回大会運営委員長)。

議事ならびに報告:

- (1) 第2回常任委員会の報告。
- (2) 第99回大会について。会長がプログラムの概要を説明し, 大会運営委員長成田義光氏が開催校としての説明をした。
- (3) 第100回大会について。次のことがらを決定した。
  - 1) 第100回大会として東京大学で, 土田 滋氏を大会運営委員長として開催すること。
  - 2) 第1回からの開催校一覧を含む記念の小冊子を発行すること。

- (4) 文部省「言語学用語集」について。専門委員会委員長松本克己氏より経過報告があり、意見交換がなされた。
- (5) 研究発表、投稿に会員でない者を含むことについて。前回委員会より継続審議となっている本件につき種々意見交換を行なったが結論がでず、事務局、編集委員会で、今後更に検討を加えた結果をもとにして、次回委員会で再審議することとした。
- (6) その他。
- (a) 日本学術会議第14期会員柴田 武氏より、同会議で「人文系諸科学の研究基盤の整備」について検討を進めることになり、検討のための基礎資料として、試行的にアンケート調査を行ないたいので協力をお願いしたいとの依頼がなされ、審議の結果、日本言語学会として、全面的に協力することが決定された。
- (b) 1990年音声言語処理国際会議(実行委員長 藤崎博也氏)の協賛団体となることが承認された。
- (c) 財団法人津田塾会主催日本語専門家会議および日本語シンポジウム「言語理論と日本語教育の相互活性化」(於津田ホール, 1989年12月1日, 2日, 3日)の協賛団体となることが承認された。
- (d) 文部省平成元年度科学研究費補助金が48万円に決定したとの報告があった。
- (e) 1990年4月より、現会長小泉 保氏が大阪外国語大学から関西外国語大学に転出することになったとの報告がなされ、それに伴う事務局体制の変更が承認された。

## 第99回大会

期 日 平成元年10月14日(土)・15日(日)  
会 場 関西学院大学

### 第1日(10月14日)

開会の辞 午後1時より

## シンポジウム

## 《日本語と言語理論》

司会・まとめ	井上和子
文法論	柴谷方良
語形成論	影山太郎
音韻理論	原口庄輔

会員懇親会 午後5時30分～7時30分

## 第2日(10月15日)

研究発表 午前10時～12時20分

## ○A会場

- |  |        |
|--|--------|
| (A1) 鼻は象が長い——節文の次元構造を考える——   | 田原 燕   |
| (A2) Where does the Japanese Sentence Pattern<br>“Boku-wa Unagi-da” come from? | 大野 喜代治 |
| (A3) 名詞句の解釈をめぐる  | 西山 佑司  |
| (A4) 日本語における格形の相互交換について<br>——「弾が的に当たる」と「的が弾に当たる」,<br>「弾を的に当てる」と「的を弾に当てる」——     | 定延 利之  |

## ○B会場

- |  |        |
|--|--------|
| (B1) 無とゼロの指標                                       | 水野 晴光  |
| (B2) 英語未来表現の現在と未来                                  | 沖田 知子  |
| (B3) Deictic schema でみる指示詞の用いられ方<br>——認知言語学の視点から—— | 井上 逸兵衛 |
| (B4) 感情形容詞のファジィ理論による分析                             | 濱本 秀樹  |

## ○C会場

- |  |       |
|--|-------|
| (C1) 下り訳の原理                              | 光原 百合 |
| (C2) 日本語における母音連続の長母音化について<br>——その要因と過程—— | 高山 知明 |
| (C3) GF-θ の分割フィルター                       | 高橋 孝二 |

- (C 4) Towards a Theory of Control and PRO 浦 啓 之
- 研究発表 午後1時30分～3時50分
- A会場
- (A 5) 「しかし」による文接続の諸相 北 野 浩 章
- (A 6) 日本語における文要素の後置について 藤 井 洋 子
- (A 7) 敬語の発想点はどこか 堀 素 子
- (A 8) 所有者敬語と所有傾斜 角 田 太 作
- B会場
- (B 5) Frame Semantic からのジョークへのアプローチ 熊 谷 正
- (B 6) Reexamination of Back channel Signals 林 礼 子  
林 宅 男
- (B 7) like の語用論 田 中 実
- (B 8) 談話標識 anyway の機能 高 原 脩
- C会場
- (C 5) DP 内部の空所化と pro 本 田 盛
- (C 6) 音韻部門におけるひな形アプローチについて 高 橋 直 彦
- (C 7) アルタイ諸語における序数詞形成接尾辞について 山 崎 雅 人

## ◇ 受贈図書リスト（平成元年7月1日～11月30日）

『アイヌ神謡集』辞典（切替英雄著）

（北海道大学 文学部言語学研究室 1989）

英語学の視点（大江三郎先生追悼論文集 編集委員会編）

（九州大学出版会 1989）

音声学会会報 第190号

（日本音声学会 1989）

外国文学研究 85～87

（立命館大学 外国語科連絡協議会 1989）

外国文学研究 第1号～第87号総目次

(立命館大学 外国語科連絡協議会 1989)

機械翻訳の開発と実用に関する実態調査

(日本電子工業振興協会 1989)

計量国語学 17巻2号

(計量国語学会 1989)

研究紀要 第10巻 第1号

(鹿児島女子大学 1989)

研究報告集 10

(国立国語研究所 1989)

言語と知識 (ノーム・チョムスキー著 田窪行則, 郡司隆男訳)

(産業図書 1989)

言語の世界

Vol. 5 No. 2-1987 Vol. 6 Nos. 1・2-1988

Vol. 7 No. 1-1989

(言語研究学会 1987～89)

言語文化研究 XV

(大阪大学 言語文化部 1989)

言語文化研究 第7号

(京都外国語大学大学院 外国語学研究科言語・文化研究会 1989)

言文だより No. 6

(大阪大学言語文化部 1989)

国語学 157, 158

(国語学会 1989)

佐渡 一自然・文化・社会一 (九学会連合 佐渡調査委員会編)

(平凡社 1989)

史苑 第49巻 第2号

(立教大学史学会 1989)

下北 一自然・文化・社会一 (九学会連合 下北調査委員会編)

(平凡社 1989)

宗教研究 280 第63巻 第1輯, 281 第63巻 第2輯

(日本宗教学会 1989)

調査報告集 10

(国立民族学博物館 情報管理施設 1989)

朝鮮学報 第百三十一輯, 百三十二輯

(朝鮮学会 1989)

通信 第66号

(東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 1989)

東海大学紀要：留学生教育センター 第9号

(東海大学 1989)

- 東京外国語大学論集 第39号 (東京外国語大学 1989)
- 東方学 第七十八輯 (東方学会 1989)
- 東方学会報 No. 56 (東方学会 1989)
- 東洋音楽学会第40回大会 (東洋音楽学会 1989)
- 東洋音楽研究 第54号 (東洋音楽学会 1989)
- 独協大学外国語教育研究 第8号 (独協大学 外国語教育研究所 1989)
- 名古屋学院大学外国語教育紀要 No. 20  
(名古屋学院大学 外国語教育研究センター 1989)
- 日常言語と専門用語(柴田武講演記録) (専門用語研究会 1989)
- 日本学術会議月報 第30巻7月～11月号  
(日本学術会議広報委員会 1989)
- 日本民俗学 176-1988, 177-1989 (日本民俗学会 1988～89)
- 能登 一自然・文化・社会一(九学会連合 能登調査委員会編)  
(平凡社 1989)
- 函館英文学 XXVIII (函館英語英文学会 1989)
- 民俗文化 第306号 (滋賀民俗学会 1989)
- みんぱく 7月～11月号 (国立民族学博物館 1989)
- 明海大学外国語学部論集 第1集  
(明海大学 外国語学部紀要編集委員会 1988)
- 山形女子短期大学紀要 第21集 (山形女子短期大学 1989)
- レポート笠間 第30号 笠間書院 1989)
- 論集 44 (神戸大学教養部 1989)
- 私の言語学(二瓶重直著) (二瓶重直 1988)
- Acta Asiatica 57 (東方学会 1989)
- American Translators Association Series Vol. III  
(State University of New York at Binghamton <SUNY> 1989)
- ArOr Vol. 57 2 (Academia Praha 1989)
- BCTEAA Bulletin No. 2  
(University/College Teachers of English Alumni Association 1989)

- Вестник Ленинградского Университета 2, 3 (Ленинград 1989)
- Bulletin No. 124 (The Linguistic Society of America 1989)
- Bulletin of the School of Oriental and African  
Studies Vol. LII Part 1 (University of London 1989)
- Chinese Democracy (John H. Fincher)  
(東京外国語大学 アジア・アフリカ言語文化研究所 1989)
- The Chinese Language, a Concrete Analysis Vol. 1, 2  
(Docteur Nguyen Hoal NHAN 1989)
- The Dictionary of Lahu (James A. Matisoff)  
(University of California Press 1989)
- Etymology and Grammatical Discourse in Late Antiquity  
and the Early Middle Ages (Mark Amsler)  
(John Benjamins Publishing Company 1989)
- Japanese Quantitative Linguistics (Shizuo Mizutani)  
(Studienverlag Dr. N. Brockmeyer 1989)
- Language Vol. 65 No. 2 (The Linguistic Society of America 1989)
- Lexicon No. 18 (岩崎研究会 1989)
- Linguistic Research No. 7 (東京大学 文学部英文学研究室 1989)
- The MIT Press : Fall 1989 (The MIT Press 1989)
- Naše řeč 3  
(Academia nakladatelství Československé akademie věd 1989)
- NIAS Report 1989 (Nordic Institute of Asian Studies 1989)
- Philologia 21 (三重大学英語研究会 1989)
- Русская Литература 2, 3 (Академия Наук СССР 1989)
- Русский Язык в Школе 2 ~ 4 (Просвещение 1989)
- Slovo a Slovesnost L 3  
(Československá Akademie Oriental Institute Čsav 1989)

## 1990年音声言語処理国際会議 (ICSLP-90)

1990 International Conference on Spoken Language Processing

- 日 時：1990年11月18日(日)～22日(木)
- 会 場：神戸国際会議場(神戸市中央区港島中町6-9-1 TEL. 078-302-5200)
- 主 催：1990年音声言語処理国際会議組織委員会  
(委員長：藤崎博也東京大学教授)
- 共 催：日本音響学会 電子情報通信学会 IEEE東京支部 国際科学振興財団  
欧州音声通信学会 (European Speech Communication Association)
- 協 賛：情報処理学会 人工知能学会 日本言語学会 日本聴覚医学会 日本  
音声言語医学会 IEEE音響・音声・信号処理学会 (IEEE Acoustics,  
Speech, and Signal Processing Society)

趣 旨：今日の高度情報化社会において、音声言語はヒューマン・インターフェイスおよびマン・マシン・インターフェイスの最も重要な媒体であります。その利点を十分に発揮するには、人間における音声言語の処理の深い理解と、その知識に立脚した高度の処理技術が必要であり、我が国をはじめ海外でも重点的に研究が進められています。この会議は、このような学問・社会の要請にこたえて、人間と機械における音声言語の処理に関し、基礎から応用にわたる重要な諸問題を取り上げ、最新の研究成果の発表と意見交換を通じて、この分野の学術の世界的な発展に寄与することを目的とした、世界で最初の国際会議です。

論文募集：音声言語処理に関連する広い分野の論文を募集します。分野を下記のA～Uに例示しますが、それ以外の新しい分野の論文も考慮の対象となります。

- |            |             |
|------------|-------------|
| A. 音声学・音韻論 | D. 音声言語の分析  |
| B. 音声言語の生成 | E. 音声言語の合成  |
| C. 音声言語の知覚 | F. 音声伝送・符号化 |

- |                     |                 |
|---------------------|-----------------|
| G. 音声強調・雑音抑圧        | O. 音声技術の評価と人間要因 |
| H. 音声言語の認識・理解       | P. 音声言語に関連する標準化 |
| I. 談話の分析・モデル・生成     | Q. 音声言語データベース   |
| J. 談話と韻律            | R. 音声・聴覚障害と補助機器 |
| K. 音声処理と言語処理の統合     | S. 音声言語の獲得・学習   |
| L. 話者識別・話者照合        | T. 音声言語教育       |
| M. 神経回路網による音声処理     | U. その他          |
| N. 音声処理用ハードウェア・システム |                 |

論文応募には、まず以下に示した体裁の概要を御提出下さい。ただし、採択された場合、会議に参加し発表できることが前提です。採否は、提出された概要にもとづいてプログラム委員会が決定します。概要と本論文の送付期限などは以下に示す通りです。

概要の提出：英文で400語以内（1ページ）の論集概要を4部作成し、1990年4月30日までに到着するように、下記の宛先まで送付すること。概要は、論文タイトル、著者の氏名、所属とアドレス、本文、の順に記し、そのあとに別項として、A～Uの分野の記号（2つ以上の分野にまたがる場合には、関連の深い順に併記）、採否通知を受けるべき著者の氏名、連絡先アドレス、電話番号（可能ならばFAX番号も）を必ず記入すること。

〒180 武蔵野市緑町 3-9-11

NTT ヒューマンインターフェイス研究所

音声情報研究部

ICSLP-90 プログラム委員長

古井 貞熙

本論文の提出：採択通知を受けた論文の著者は、その通知と共に送付される作成要領に従って、4ページの本論文 (photo-ready) を作成すること。本論文は予稿集として印刷され、会議登録を行ったすべての参加者に配布されます。

使用言語：会議での使用言語は英語とします。

日 程：論文概要送付期限：1990年4月30日 (必着)

採否決定通知： 1990年6月15日

本論文送付期限： 1990年8月15日 (必着)

問 合 先：ICSLP-90 事務局

〒107 東京都港区赤坂 1-8-10 興和ビル

（株）サイマルインターナショナル 気付

Tel. 03-586-8691

---

◇ 平成元年度秋の叙勲において、本学会会員山口秀夫氏は、勲三等瑞宝賞を受章されました。本学会として、心からお祝い申し上げます。

---

◇ 本誌は、文部省平成元年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を得て刊行されたものである。